



近用（老）眼鏡作成

40代になると始まると言われている老眼。いわゆるaround fifty（アラフィフ）になると実際に眼鏡を持っている方はぐっと増えていきます。現在、近用眼鏡には3つの種類があります。

① 単焦点レンズ

利点 見たい距離に合わせれば、見やすく装用感がよい

欠点 見たい距離に応じて眼鏡が複数用意で掛け外しが必要

② 二重焦点レンズ

利点 遠用と近用の二つを見ることが可能でピント合わせが容易

欠点 遠用と近用の境界部で像が欠ける部位あり
近用部がわかり整容的問題ある

③ 累進屈折レンズ

利点 遠用から近用まで様々な場面で視距離に応じて焦点を合わせることができる
遠近両用眼鏡を希望される方の多くはこのレンズを選ぶ

欠点 レンズの両側面に収差や歪みが生じるため慣れないと見えにくく合わない方もいる

老眼鏡の作成をためらってしまうことがあります。「老眼」という名前がイメージを悪くしてしまいましたが、一定の年齢になると否応なしに症状が出てきます。今まで手を出さなかった方も、試してみることで、諸々の眼の疲れが楽になったと感じる方が多いのも事実です。是非ご相談ください。

眼鏡以外の方法にはLASIK,ICLといった手術もあります。また、日本では現在未承認ではありますが、点眼薬が米国では発売されています。

